

感染対策アドバイザー検定

正しい知識、適切な対応を学び 施設全体の対応力をさらに向上



▲感染対策アドバイザーの資格をもつ特別養護老人ホームしらさぎ苑の池田智さん(左)。日本環境感染学会DICT(災害時感染制御支援チーム)の認定も受けている

インフルエンザやノロウイルス、新型コロナウイルスなどさまざまな感染リスクへの対策が日々求められる介護の現場。感染症に関する正しい知識を身につけられるとともに、他の職員への教育にも役立つ資格として、「感染対策アドバイザー検定」が注目されている。

(撮影/木村哲也)

正しい知識、正しい対策が 何よりも重要

介護施設・事業所にとって、感染対策は必須の取り組み。今年度から感染症発生に備えたBCP(事業継続計画)策定も義務づけられ、職員一人ひとりが感染症に対する正しい知識をもち、予防や拡大防止に努めることが求められる。

こうしたなか、施設・事業所の感染対策を「正しく知り、正しく対策」するための検定試験として注目が高まっているのが「感染対策アドバイザー」だ。いつ・どのような感染症が発生するかわからない今日、業種を問わず、感染対策に関する正しい基本知識を身につけられ、スタッフ教育にも役立つ検定試験として、2020年に創設された。

「感染症については、完全な対策、予防策というものはありません。過度に恐れることもリスクを過小評価することもなく、正しく知って正しく対策することで、拡大を防ぐことはできます。それをきちんと知ってもらい、広めたいと考え、この検定を始めま

した」と、検定の運営を担う日販セグモ株式会社代表取締役の安井邦好さんは話す。

検定の対象は、小売店や飲食店、スポーツジム、エンターテインメント施設などが集まる店舗や施設で、責任者が資格を取り、スタッフに正しい対策を教育することで、感染対策の強化が図られることを念頭に置いていた。しかし申し込みを始めると、介護施設関係者からの申し込みも多く、この検定は介護業界にも有用だと認識したという。

感染対策の肝は 日々の心がけとスタッフ教育

島根県の東端にある安来市。同市で1982年に開設された特別養護老人ホームしらさぎ苑(社会福祉法人やすぎ福祉会)に勤める看護師の池田智さんは、2020年に感染対策アドバイザー検定を取得した。2011年の東日本大震災で現地に応援に赴いた際、衛生環境の問題に直面。それ以来、感染対策について個人的に勉強を続けていたところ、感染対策アドバイザー検定のことを知り、施設

感染対策アドバイザー検定とは

「感染対策アドバイザー検定」は、感染症のリスクに対し、「正しく知り、正しく対策」するための知識を問い、従業員教育を推進することで、より強固な感染対策を機能させることを目的とした検定。新型コロナウイルス感染症の拡大を背景に、2020年からスタートした。主催は一般社団法人感染対策アドバイザー協会で、運営は日販セグモ株式会社が行っている。

検定試験は講義動画(合計35分程度)を視聴した後、任意の日時にオンラインで受験する。合格者には、合格認定証=AAI(Act Against Infection)認定証が送付される。有効期限は2年で更新可能。受験資格は特になく、未成年や外国人スタッフなども受験できる。

お問い合わせ先

感染対策アドバイザー検定事務局

MAIL info@ipea.or.jp TEL 03-6627-6502

URL www.kentei-uketsuke.com/aai/

営業時間：9：00～18：00
(土日祝、国民の休日、年末年始を除く)

検定の概要、
申し込み等はこちら→



の対策強化に役立てばと思えば、速、資格を取ったという。資格取得は、パソコンやタブレット端末、スマホなどで動画を見るだけで、内容もわかりやすく、そう大きな負担は感じなかったそうだ。感染対策というと、内容が専門的で難解と思いがちだが、誰でもわかりやすい内容に組み砕いてコンパクトな動画に収められているのが特徴だ。

池田さんは現在、感染対策委員

長として月に1回委員会を開催し、原因となるウイルスを、持ち込まない、持ち込ませない、広げない、取り組みに注力する毎日だ。「感染対策は日々の心がけの積み重ねとスタッフ教育に尽きます」と言う池田さん。「排泄介助の後には必ずアルコール消毒を」といった注意喚起の貼り紙をトイレ前に掲示するなど、地道な取り組みにも余念がない。施設のBCPマニュアルや標準予防策の策定も

主導し、資格取得で勉強したこと

が非常に役に立ったという。

同施設には池田さんを含め8人の看護師(現在1人は産休中)が

在籍しており、手厚い体制で感染

対策を含めた利用者の健康管理に

取り組んでいる。池田さんらの活

動により、同施設ではここ数年、

ノロウイルスやインフルエンザは

発生していない。そのほかにも、

同施設は看取りケアに入れて

おり、急変しても病院には搬送せ

ず、家族に見守られながら、苦痛

を伴わず穏やかに人生を全うでき

るようなケアをめざしている。

「この検定を取得したことで感染

対策についての説得力が増し、利



▶しらすぎ苑の看取りケア委員を務める看護師の宇山雅子さん(左)、池田さん(中央)、澤田美和さん(右)

施設概要

社会福祉法人やすぎ福祉会 特別養護老人ホーム しらすぎ苑

●島根県安来市古川町829-1

TEL 0854-28-9980

URL yasugifukusikai.jp/facility/sirasagien



用者様やそのご家族のさらなる信頼感やスタッフの安心感につながっています。それが大きなメリットです」と池田さんは言う。その一方で、「感染症に終わりはなく、次の感染症がいつ発生するかわかりません」と気を引き締める。「利用者様が安心して安全な生活を送れるよう、常に緊張感をもって手洗いなどの基本を徹底していきたいです」と力を込めて語った。